

# がん化学療法の説明書 と スケジュール説明書

## 1. がん化学療法とその目的

がん化学療法は、抗がん剤を用いて腫瘍細胞の増殖を抑制したり、腫瘍細胞を死滅させることにより腫瘍を縮小、消滅させたり、再発を予防したりすることを目的とする治療法です。

がん化学療法は、下記の3つに大別できます。

- (a) **手術の前に腫瘍細胞を縮小する目的で施行する術前化学療法**
- (b) **手術の後に体内に残存する可能性のある腫瘍細胞を消滅させる目的で施行する術後化学療法**
- (c) **切除していない、または再発した腫瘍細胞の増殖を抑制する目的で施行する化学療法**
- (d) これらに加えて腫瘍縮小効果のみならず延命効果及び生活の質（QOL）の向上（痛みの軽減、食事の再開など）も化学療法の大なる目的のひとつです。

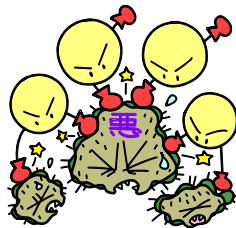
### (1) 抗がん剤の特徴

抗がん剤は、点滴または口から服用していただきます。患者さんが使用する抗がん剤の薬剤名は、治療サイクルごとに主治医、薬剤師からご説明させていただきます。抗がん剤は、血液中を循環して腫瘍細胞に作用して治療効果を生じます。このように抗がん剤は、全身に作用する特徴を有するため、特定の箇所のみではなく全身の腫瘍に有効性が期待されます。一方、手術や放射線療法は、治療を施した箇所（領域）に高い効果を有するという特徴があります。

抗がん剤が血液中を循環する際に正常な細胞に作用すると副作用が発現します。具体例として、消化管に作用した場合の吐き気や嘔吐、下痢があります。

### (2) 併用療法

抗がん剤には腫瘍細胞への作用方法が異なる、さまざまな薬があります。このことを専門用語で薬理効果が異なる薬剤と言います。一般的に、単剤で高用量を使用するよりも薬理効果が異なる薬剤を数種類組み合わせ



抑制（白血球減少、血小板減少、貧血）、消化器下痢）、脱毛、全身倦怠感、腎臓、肝臓などの臓

がありますが、化学療法後2〜3週間は、骨髄の機能



反映する自覚症状はありません。

このため、化学療法後は定期的に採血を行い一定レベルより白血球が減少した場合には、お部屋の中での安静（逆隔離）、マスクの着用などをお願いすることがあります。必要に応じて抗生物質を使用する場合もあります。

白血球の減少の程度により白血球を増加を促進する作用をもつ顆粒球コロニー刺激因子：G-CSFの注射剤を使用する場合があります。G-CSFは減少した白血球を回復させ、細菌感染症の発生を防止したり、その頻度を減少させることが報告されています。

《ご自身で気をつけて頂きたいこと》

うがいや手洗いは重要な感染予防の方法です。こまめに行うことにより感染予防を行って下さい。

## 様

### 4 TJ療法( 回目)投与スケジュール

1日目	月 日	2日目	月 日	3日目	月 日
<p>※ 医師が点滴のための針を入れます</p>					
<p>5-① 生理食塩液 50mL + デカドロン 24mg (アレルギー・吐き気予防) 20:00~21:00</p>		<p>5-① 生理食塩液 50mL 9:30~10:00</p>		2-①	<p>ソリター-T3 500mL 9:30~10:30</p>
		<p>5-①' ザンタック 50mg(アレルギー予防) セロトーン 10mg(吐き気予防) ベナ錠 5錠(アレルギー予防) &lt;飲みます&gt; 9:30</p>		2-①'	<p>生理食塩液 50mL + セロトーン 10mg (吐き気予防) 9:30~9:45</p>
		<p>5-② 生理食塩液 500mL + タキシソール 10:00~13:00</p>		2-②	<p>ソリター-T3 500mL 10:30~12:00</p>
		<p>5-③ 生理食塩液 500mL + パラプラチン 13:00~15:00</p>		<p>● 治療中に気をつけること ●</p> <p>▶ 点滴を入れてある部分が痛かったり赤くならしたりに知らせてください。</p> <p>▶ 点滴をしている最中にアレルギー症状(息苦しい・体がゆがむ・胸が苦しい・顔がほてる・発疹が出る)が出る場合があります。症状が出たらすぐに知らせてください。</p>	
		<p>5-④ ソリター-T3 500mL 15:00~16:00</p>			
		<p>5-⑤ ソリター-T3 500mL 16:00~17:00</p>			

## 投与スケジュールに関する説明書

## 効果・副作用・副作用対策の説明書